The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	『未来共創』発刊にあたって
Author(s)	渥美, 公秀
Citation	未来共創. 2021, 8, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83893
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

『未来共創』発刊にあたって

『未来共創』第8号をお届けします。6年間にわたって発刊された『未来共生学』を引き継いだ前号では、「当面は、編集委員会が企画した特集を掲載し、大学院生たちが投稿した論文や研究ノートを掲載していく」としつつも、「より幅広い書き手と読み手を獲得していけるように工夫を重ねていきたい」と記していました。

『未来共創』となって第2号目となる本号にも、大学院生を中心とした論文2編、研究ノート3編、書評3編、そして4本のエッセイをお寄せ頂きました。附属未来共創センターでは今年度のテーマを「レジリエンス」として研究会を重ねましたので、その成果を特集「レジリエンス」として本号に掲載することにしました。またセンターが関わりました活動の報告も4編掲載しました。なんとか『未来共生学』を受け継ぐことができたと感じています。原稿をお寄せ下さった皆様に感謝申し上げます。

一方、本号では、新しい試みも始めてみました。フォーラムとして掲載した2つの論考です。学術論文として投稿されたわけではありませんでしたが、本誌の読者とともに議論していきたい話題について執筆者らがディスカッションを重ねてその成果を届けて下さいました。そこで編集委

員会では、それぞれ複数の教員とやりとりを行ってもらい、修正などを経て収録することにしました。もとより論文は開かれたものですから、論文内容に関する議論は各所で起こりますが、フォーラムに掲載した論考は、そうして生じる議論を次号以降に掲載することを目指しています。これらの論考に対するレスポンスとして新たな論考が書かれ投稿されることや、著者らと議論を行ってもらってその成果を次号に投稿してもらうことなど大いに期待するところです。

本号も350ページを上回りました。電子ジャーナルですので、重量感や手触りには欠けますが、大部の雑誌を世界中、どこでも誰でもアクセスできる形で発刊できることは大変意義深いと考えます。編集委員会としましては、本誌についてさらなる広報に努めたいと思います。

2021年3月15日

『未来共創』編集委員会委員長
大阪大学大学院人間科学研究科
渥美 公秀